

(公社)沖縄県シルバー人材センター連合
令和5年度事業報告

我が国は人口減少、少子高齢化が進展し、労働力人口の減少で企業等においては働き手を確保することが難しくなっている。

このような状況においては高齢者の多様性のある活用の促進や年齢を問わずに働き続ける社会の実現が必要になっている。

シルバー人材センターは、特に長年培った知識、経験、技能を生かして就業することができる重要な役割を担っており、近年では人手不足が顕在化している分野や現役世代の活躍を支える子育てや介護分野での担い手としても役割は大きくなっている。

地域においてはボランティア活動や世代間交流、子育て支援等を通して地域の担い手として継続した活動を引き続き積極的に行うことで地域のつながりを深める役割を担っている。

今後も人生100年時代に向けての役割は大きくなると考えられ、一層の就業の推進や地域発展に寄与する中で事業を推進してきた。

令和5年度は「第四次中期事業計画」の3年目として各拠点センターと連携して目標達成に向けて取り組んだ。会員拡大に関しては特に女性会員の拡大に向けた強化を行い、安全就業に関しては「安全は全てに優先する」を基本に強固に取り組んだ。派遣就業に関してはコロナ禍の影響が大きかったことから回復に向けて各センターと情報の共有や事業所へのアプローチに力を入れた取り組みを行った。

インボイス制度への対応として今後の契約方法の見直しを見据え、会員や職員等へデジタル化を推進するためスマホ・パソコンの講習会や相談窓口を設置した。

沖縄労働局から「高齢者活躍人材確保育成事業」を受託し、中小企業の人手不足解消や現役世代の支援の為、高齢者の入会促進や就業機会の拡大に取り組んだ。

その結果、令和5年度の事業実績は、会員数は前年度の5,712名から5,601名の111名減となった。請負契約額は前年度から約6,800万円増加し、約26億4,300万円余となった。就業延人数は400,507名で前年度から11,097名減となった。派遣事業は、就業延人数が12,521名で前年度より395名増となり、実績額は6,267万円余で前年度より655万円余の増となった。

1 基本方針

① 第四次中期事業計画の推進と令和5年度数値目標の達成に努める。

第四次中期事業計画の3年目にあたり、拠点センターと連携・協力して高齢者の入会促進、就業機会の拡大等の数値目標の達成とワンストップサービスセンターの実現に取り組んだが、数値目標については全5項目とも達成することができなかった。

- ② 安全・適正就業を推進し、安心・安全なシルバー人材センターの実現に努める。
 拠点センターと連携・協力して安心・安全なシルバー人材センターの実現を目指して各種事故防止策を推進、安全就業の徹底と事故の未然防止に努めた結果、事故発生件数は111件（傷害事故25件、損害事故86件）と前年度を3件上回る事となった、刈払機と車両関係の事故件数がかなり増えており、さらなる安全就業の徹底が求められる結果となった。
 適正就業については、各センター受託契約書等のチェックを行うとともに関係職員との会議等で適正就業ガイドラインに基づいた適正な事業運営の推進に努めた。
- ③ 連合及び拠点センターの運営基盤の強化に努める。
 連合事業の円滑な推進を図るため事業推進検討委員会や各種担当者会議、福祉・家事援助サービス研究会等により連合及び拠点センターの運営基盤の強化に努めた。結果として、受託契約額は増となったが会員数、就業延人員は昨年を下回った。派遣事業は契約額及び就業延人員で前年度を上回ることができた。
- ④ 公益法人として、公益目的事業の着実な実施に努める。
 公益目的事業として認定されているシルバー人材センター事業について、国、県指導の下、拠点センターと連携・協力して着実な実施と法に準拠した運営に努めた。

2 中期目標の達成状況	(実績)	(目標)	(令和4年度実績)
① 会員数	5,601名	7,372名	5,712名
② 就業率	70.3%	78.3%	70.8%
③ 就業延人員(請負・委任)	400,507人日	442,955人日	411,604人日
④ 就業延人員(シルバー派遣)	12,521人日	14,840人日	12,126人日
⑤ ボランティア参加人数	延べ5,486名	延べ6,092名	延べ4,061名

全シ協のコロナ前(令和元年度)の数値を基準とした暫定的な会員数の令和5年度目標数値は5,928名となっており達成しなかった。

3 実施計画

[公益目的事業1]

就業等の活動機会の開拓及び提供により高齢者の社会参加を促進する事業

- (1) 雇用によらない臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の提供
- ① 受託調整
 一般家庭及び事業所等のニーズと高齢者の就業ニーズを調整し、これらの仕事を受注・提供できるように各拠点センターと連絡・調整に努めた
- (2) 雇用による臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の提供
- ① 有料の職業紹介事業

雇用による臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業を希望する高齢者のために有料の職業紹介事業は行われなかった。

ア 数値目標		実績
・ 求人件数	3 件	0 件
・ 有料職業紹介事業収益	80 千円	0 千円

② 労働者派遣事業（シルバー派遣事業）

派遣による雇用就業を希望する拠点センター会員と人手不足企業等のニーズをマッチングするため、臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業の範囲で労働者派遣事業を行った。

ア 受注実績		(令和4年度実績)
・ 受注件数	218 件	198 件
・ 労働者派遣事業収益	62,679,216 円	56,119,851 円
・ 就業実人員	274 人	265 人
・ 就業延人員	12,521 人日	12,126 人日

(3) 臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業に必要な知識及び技能を付与するための講習

① 技能講習会等の実施

「高齢者活躍人材確保育成事業」を活用して、拠点センターでの就業を希望する高齢者や拠点センター会員で未就業者や職種転換を希望する者に対し、就業に必要な知識及び技能を付与するための技能講習会や職種転換後の新たな分野での就業又は入会後の就業を円滑にするための就業体験を次のとおり行った。

ア 技能講習

・ 介護補助スタッフ講習（2回）	受講修了者数	19 名
・ 保育補助スタッフ講習（1回）	受講修了者数	12 名
・ 学童補助スタッフ講習（1回）	受講修了者数	16 名
・ 店舗補助スタッフ講習（1回）	受講修了者数	11 名
・ 清掃スタッフ講習（2回）	受講修了者数	25 名
・ 公園管理スタッフ講習（2回）	受講修了者数	26 名
合計 9回	合計	109 名

イ 高齢者対象の就業体験

・ 実施回数 3回	参加者数	6 人
-----------	------	-----

ウ 企業向け就業体験

・ 実施回数 3回	参加者数	7 人
-----------	------	-----

エ 会員向けシルバー派遣事業説明会

・ 実施回数 2回	参加者数	30 人
-----------	------	------

オ 企業向けシルバー派遣事業説明会

- ・実施回数 2回 参加企業数 24社
- カ 出張入会説明会
- ・実施回数 5回 参加者数 63名

(4) 上記(1)~(3)の事業を推進するための諸活動及びその他の社会参加活動を推進するための諸活動

① 普及啓発

シルバー事業の発展拡充を図るため、拠点センターと連携した啓発活動と、「高齢者活躍人材確保育成事業」を活用して、高齢者及び県民、企業、官公庁等に対する啓発活動を次のとおり行った。

ア 多様な知識と経験、資格・能力を持つ高齢者、特に女性高齢者の事業参加を促進するとともに、県民、企業、官公庁等からの支援拡大を図るための啓発活動を推進した

- ・ ICT（情報通信技術）等の多様なツールを活用した啓発活動を推進
- イ 普及啓発促進月間（10月）を設定し、各拠点センターと連携して啓発に努めた
 - ・ 拠点センターと連携して集中的な啓発活動を推進
 - ・ 「シルバーの日（第3土曜日）」における効果的な啓発活動を推進
 - ・ 女性高齢者の入会促進を図るための経験交流大会の開催（2年連続）
- ウ 未設置町村へのセンター設置に係る情報提供や必要に応じて訪問活動を実施した。5年度は県と合同で南風原町、連合で久米島町に説明を行った
- エ 「高齢者活躍人材確保育成事業」を活用して、高齢者及び企業に対する積極的な周知・広報活動の推進を行った
 - ・ 自治体広報誌やマスメディア（新聞や企業誌）等を活用した周知・広報を推進

オ 事業実施状況等を周知する連合だよりの発行（1回）

カ その他

- ・ 先進事例等の情報を収集・提供するため、月刊シルバーを県内の全市町村へ配布した。
- ・ 県内新聞社4社へ計16回のシルバー募集等の掲載（タブロイド紙を含む）を行い、市町村広報紙へ計96回掲載し、県内商工会5社へ計12回の広告を掲載した。
- ・ 入会用チラシ33,000枚、派遣用チラシ8,000枚を市町村窓口、市町村担当部署、市町村自治会、商工会やハローワーク等関係機関へ配布・周知した。

② 安全・適正就業の推進

「安全は全てに優先する」及び「法令遵守」をスローガンに、拠点センター会員の安全就業の徹底と法令に則った適正な就業を推進するため拠点センターと

連携して次のとおり行った。

- ア 令和5年度安全・適正就業推進計画を策定し、各センターと安全就業に対する認識や予防対策を共有するとともに意見交換を行った。
- イ 安全・適正就業パトロール指導員（1名）の配置と巡回指導を実施した。パトロールはコロナの影響が無くなったので本島内SCは月に1回、離島2SCは年1回を基本として巡回した
巡回指導実績は17センター 指導回数 182回 現場310箇所
- ウ 「適正就業ガイドライン」に基づく適正な受注及び就業提供の徹底を安全・適正就業推進委員会及び、事業推進検討委員会で行った
- エ 安全・適正就業強化月間（7月）を設定し、拠点センターと連携して安全意識徹底に取り組んだ
 - ・安全・適正就業推進大会を開催し、安全就業を推進することを確認し、管理栄養士の城間 かおり氏の「筋力と骨力をアップする食生活とは～いつまでも若々しく、アクティブエイジングを目指して～」と題して講演を行った
参加者50名
- オ 拠点センター安全・適正就業担当者会議を開催（2回）し、安全就業・適正就業の推進について共通認識を深めた。特に刈払機と車両関係の事故が多発傾向にあることから強い注意喚起を促し改善を勧めた。
 - ・より高い刈払機の安全講習に向けて「刈払機取扱い作業安全衛生教育」講座を実施し、修了証の交付を行った 参加者21名
- カ 新型コロナウイルス感染症に係る感染防止対策の徹底と「新しい生活様式」の周知・推進による安心できる就業環境の確保を確認した
- キ その他、安全・適正就業に関する情報の提供等を各拠点センターへ行った

③ 調査研究

シルバー事業の発展・拡充に資するため、次のとおり調査研究を行った。

- ア 女性会員拡大のためのワーキング会議を開催した
役員、事務職員、会員の自由参加とし、女性会員拡大に向けた好事例や課題について意見を収集し今後につなげることにした 参加状況 8センター 30名
- イ 事業概況（150冊）の作成し、拠点センター及び関係団体へ配布した
- ウ 拠点センターの事業実施状況等を取り纏め、事業推進検討委員会で分析、意見交換を行った
- エ 企業情報の収集と提供（商工リサーチ）を行った

④ 就業分野の開拓・拡大

高齢者の多様な希望に応じた就業機会を確保・提供するため、就業分野の開拓・拡大を図るとともに効率的な事業運営を推進するため、拠点センターと連

携して次のとおり行った。

- ア 事業推進検討委員会（6回）を開催し、連合事業の円滑な推進と第四次中期事業計画の目標達成に向け、会員拡大や就業拡大、消費税導入によるインボイス制度等について意見交換や情報提供を行った。
- イ 拠点センター就業開拓担当者会議を開催（2回）し、県内の事業実績や、今後の就業拡大が期待される分野への取り組みを確認した
- ウ 拠点センター業務担当者会議を開催し、適正な事業運営を行うために、センターの目的や法令に準拠した事業運営、受注に当たっての留意事項等を確認した
- エ シルバー派遣事業担当者会議を開催（1回）し、派遣事業に必要な事項を確認した
- オ 拠点センター会員の知識・資格を活用した独自事業や新たな就業分野に関して事業推進検討委員会等で各センターの情報共有を行った
- カ 全シ協、九シ協等の主催する研修会等へ参加し、研鑽に努めるとともにインボイス制度や新たなる契約についての周知や動向等を確認した
- キ 労働局、地方公共団体、企業等との連絡会議を開催した（1回）

⑤ 指導・相談

高齢者や地域社会のニーズに的確に対応した事業推進を目指す拠点センターを支援するため、指導・助言、情報提供を行うとともに、拠点センター役職員の資質向上を図るための研修等を行った

- ア シルバー人材センター事業指導員を配置（1名）し、18SCへ指導を行なった
 - ・法人化設立に向けての指導
 - ・法人会計の指導
 - ・その他、各SCからの疑義等への回答や指導
 - イ 拠点センター役職員等を対象とする研修会を開催（3回）した
 - ・新任事務局長研修はセンターの創設から理念、組織運営、事業運営、事務局長の役割等を確認した
 - ・役職員研修会を行った
 - NRI 社会情報システム株式会社シニアコンサルタント高田伸郎氏の「デジタル社会に向けたシルバー人材センターの事業拡大戦略」講演を行った
 - ・職員研修は2日間にわたって行った
 - 1日目は県内シルバーの10年の歩みからみえる課題等を確認し、SC職員の事例発表の他、「職場と私たち」と題して組織の重要性や組織の中の個の必要性について沖縄県生産本部の岸本恵春氏の講演を行った
 - 2日目は重要な事業の3つのテーマ（派遣事業推進、女性会員拡大、事務局長責務）についてグループ討議を行い、今後の取組について確認・検討した
- 参加者 1日目 28名 2日目者 18名

- ウ 拠点センター訪問指導を実施（全シ協個別指導含む）した
指導センター 6センター
- エ 拠点センター職員の自主的研究活動を支援した
 - ・福祉・家事援助サービス研究会（3回）
 - ・会計者担当者会議（1回）
- オ 高齢者及び拠点センター職員等への相談対応を実施した
 - ・拠点センターの要望により安全就業、マナー講習、インボイス制度の説明を行った
 - ・グッジョブセンターへ出張相談窓口を設置し、月2回の計24回行った
相談者数 20名
- カ シルバー事業説明・相談会（会員・地域住民等対象）の開催を実施した
 - ・開催SC 1SC
- キ 連合で講師を登録し、拠点センターが必要とする会員を対象とする講習・研修会へ講師を派遣する「講師登録・派遣事業」を実施した。
登録講師団体・人数 11名 実施件数 2回派遣
- ク ハローワーク雇用保険説明会セミナーで高齢者へシルバー人材センターの説明を行った 回数4回 人数28名
- ケ ハローワーク高齢者無料職業紹介所企業説明会に参加した
回数1回

⑥ 社会参加活動の推進

- 拠点センターと連携して、ボランティアによる社会参加、地域貢献を希望する高齢者及び拠点センター会員に対し、ボランティア活動への参加を呼びかけ、各地域における社会参加活動の推進に取り組んだ
- ・ボランティア参加人員 延べ 5,486人(対前年度比 135%増) 昨年度 4,061人

⑦ デジタル化の促進

SC職員や会員に対して、スマホを活用した業務連絡やWEB入会システム等デジタル技術を活用した業務の効率化を図るためスマホ講習（6回）を行い、並びにスマホ活用支援として相談窓口を設置した

内訳 相談窓口（33回） 内：講習会(6回)、相談件数(22件)、SC相談(9件)

※1回で複数の相談有り

4 運営体制

連合を適正かつ効率的に運営するため、次のとおり行った。

① 運営体制の充実

連合事業の円滑な推進を図るため、ICT（情報通信技術）を活用して効率的な事務執行に努めた

② 会議の開催

- ア 定時総会（6月26日 参加18センター）を開催し、事業報告、収支決算、役員を選任等について承認決定した
- イ 理事会（5回）及び3役会議（4回）を開催し、適正な運営に努めた

③ その他の取組み

- ・全国シルバー人材センター事業協会定時総会（6月23日 東京都 書面表決）
- ・九州ブロックシルバー人材センター連絡協議会定期総会（7月13日 鹿児島市）
- ・労働局、沖縄県、県内商工会議所、子育て支援関係者との意見交換会を1回行った